

## 会 議 録

会議名称	第四次西東京市地域福祉活動計画 第2回策定委員会
日 時	平成29年10月24日(火) 午後7時～9時
会 場	田無総合福祉センター2F 視聴覚室
出席者	(策定委員) 熊田委員長・坂口副委員長・小林委員・中村委員・多田委員・小松委員・ 横山委員・海老澤委員・三輪委員・鈴木委員・伊東委員・藤島委員 (事務局) 池田・丸木・鶴野・小平・浜名・妻屋・小口・齊藤・本間 (コンサルタント) 小林・志村 <株式会社 ジャパンインターナショナル総合研究所>
欠席者	伊田委員
配付資料	P 1 第四次西東京市地域福祉活動計画 第1回策定委員会 会議録 P 6 地域福祉に関する主な国の動向等について P14 「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けた取組資料(厚生労働省) P18 第四次地域福祉活動計画アンケート調査票 送付件数及び回答率 P19 第四次地域福祉活動計画策定のための市民アンケート P26 第四次地域福祉活動計画策定に向けたアンケート設問に対する意見一覧 P33 第四次地域福祉活動計画策定に向けたアンケート集計結果速報値 P43 保健、医療、福祉関係者の懇談会 実施概要(案) P44 第4期地域福祉計画地区懇談会の開催について
次 第	1. 第1回(平成29年7月25日開催)会議録の確認について 2. 「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けた取り組み等の国の動向と地域に求められる役割について 3. 第四次西東京市地域福祉活動計画策定のための市民アンケート 中間報告(平成29年10月11日現在) 4. 懇談会の実施について (1) 保健、医療、福祉関係者懇談会の実施について(社協独自開催) (2) 市民懇談会<地区別懇談会>の実施について(市と協働開催) 5. 次回以降の日程、会場 平成29年12月12日(火) 19時～21時 } 田無総合福祉センター 平成30年 2月26日(月) 19時～21時 } (2F) 視聴覚室
決定事項	・ ・
会議の内容及び 主な発言	※次ページの通り

## 会議の内容及び主な発言

### 1. 開会

- ・池田事務局長より挨拶
- ・自己紹介

### 2. 第1回（平成29年7月25日開催）会議録の確認について

- ・事務局より資料P1～5に沿って説明

【質疑・検討事項等】

（委員）

- ・4ページに「第二次計画」となっているが、「第三次計画」ではないか。

（委員長）

- ・この文脈は「アンケート」に関わる表現であり、第三次計画策定時にはアンケートはしていないことから、「第二次計画」で問題ないと思う。

（事務局）

- ・ここでは、「計画の構成」のことを触れているととらえた。アンケートの流れの中で発言されていることではあるが、委員は、計画の構成が「第三次計画と第四次計画は違う」という意味合いで言われていると受け取った。したがって「第三次計画」でよい。

（委員）

- ・第三次計画の時は、住民主体でということで、第二次計画ともかなり違う構成になった。第四次計画では、第三次計画とは異なるようにと承っている。

（事務局）

- ・ご指摘の通り、「第三次計画」と訂正させていただく。

（副委員長）

- ・その他に訂正等があれば、10月27日金曜日までに事務局まで連絡いただきたい。

### 3. 「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けた取り組み等の国の動向と社協に求められる役割について

- ・コンサルタントより資料P6～17に沿って説明

- ・委員長より当日資料『我が事・丸ごと地域共生社会』についての覚書に沿って説明

【質疑・検討事項等】

（委員）

- ・東社協のワーキングの動きについて補足しておきたい。東京都でこれを考えた時に、地域共生社会の実現は、一つの機関がワンストップで丸ごと受け止めるということではなく、横につながっていかないと都市部では難しいであろう、また、地域福祉コーディネーターのように横につながり役割が非常に重要ではないかという話になっている。西東京市社協では、地域福祉コーディネーターもあり、社会福祉法人連絡会による地域公益活動の取り組みにおいても、地域を横につながり役割を果たしている点に注目している。こうしたことが計画の中にきちんと盛り込まれるとよいと思う。全国のいろいろな取り組みを聞くと、小さな自治体では一つの機関が何もかもを丸ごとやっている報告があるが、これでは東京都ではあまり参考にはなるものではなく、横につながることが非常に重要だという話がワーキングの中では進んでいる。

(委員)

- ・地域包括支援センターの事業をしていると、関係機関と距離が近い感じがして、西東京市の大きさがちょうどよいと思う。地域包括支援センターでの相談の事例の中には、困難事例と言われる児童の問題を抱えている案件が、実は大きな存在だったというのがよくある。児童分野の方たちと協働しながらその一家を支えるという実例がたくさんあるので、児童分野との協働連携を強化していくことが重要だと思う。
- ・社協という視点で見れば、「ささえあいネットワーク」や「ほっとネットステーション」、「ふれまち」があり、「ふれまち」は高齢者に重点が置かれていると思うし、「ささえあいネットワーク」も高齢者だけではなく、障がい者や児童も一緒に見守ってくれるといいな、見守りたいなという声をよく聞く。その辺のことも計画に載ってくるとよいと思う。

(副委員長)

- ・「我が事・丸ごと」地域共生社会は厚労省の計画ではあるが、省を超えて、地域の中でも課を超えて、福祉畑でない所と、どう協働・連携できるかが一つのカギだと思う。
- ・国連から示されている考え方として「SDGs」(※注：全ての人が平和と豊かさを享受できることをめざす呼びかけ)という「持続可能な開発や成長の目標」がよく言われている。大きなお金を伴って、地域の中の課題解決の一つのメルクマール(※注：目じるし。指標。)のキーワードになってくる。中央省庁の流れを汲んで、「丸ごと」にどれぐらい取り組んでいけるかが重要になってくる。
- ・都市部であるからこそ取り残される人々、例えば地方から来た学生など、地域に世帯はなく、暮らしているだけという人たちの中にはお困りの方がたくさんいる。こういう人たちをどのように取り込んでいくかが必要になってくると思う。

#### 4. 第四次西東京市地域福祉活動計画策定のための市民アンケート 中間報告

- ・事務局、コンサルタントより資料P19~42に沿って説明

【質疑・検討事項等】

(委員)

- ・35ページの問7で、町別の回答が出ている。町別で人口自体が違うが、各地区の人口に対して何割くらいの方が地域参加しているかが分かれると面白いと思った。

(コンサルタント)

- ・18ページに示した方が対象になっている。市の住民基本台帳に基づく調査対象であれば、もう少しバランスを見た上で対象者の抽出をすることができるが、今回は社協に関わっている方が中心となっており、それを集計しているので、どうしても地区による片寄りが出ている。ただ地区割りをして集計を出すことはできるし、市で実施するアンケートでも地区別の集計がされると思うので、そちらも併せた形で示すことができればよいと思う。

(副委員長)

- ・次回は全部集計が終わっているということで、総数の報告と、分析、そこから見えてくるものや、活動計画に対するリコメンデーション(注：解説)がいただけるということで、今日のところはこれまでとする。

#### 5. 懇談会の実施について

##### (1) 保健、医療、福祉関係者懇談会に実施について(社協独自開催)

- ・事務局、コンサルタントより資料P43に沿って説明

## 【質疑・検討事項等】

### （委員）

- ・実施概要について、「専門職の視点から見た地域福祉にかかわる課題の抽出」のところで、専門職がやるのも大事だと思うが、それより前に、市民が自分たちの地域の中で抱えている課題の出し合いとか、市や社協に協力してほしいことという目線でも、市民が中心になって進めていくことが大事ではないか。市民が取り残されているというイメージがある。

### （事務局）

- ・後で説明させていただくが、市民の懇談会は西東京市と社協とでいっしょに実施するというところで、市の計画担当とは調整がついている。その前段としても熊田委員長の説明にあったように、「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現ということで、専門職の懇談会において、専門職と住民との連携は当然重点事項となる。専門職の方々が今抱えている問題で、もしかしたら住民の力を借りれば解決できるようなことがあるのではないかとということ、計画の中に盛り込んでいきたいという思いから、専門職の懇談会を開くことにした。そして、この計画の策定に向けて専門職同士の連携をさらに強固なものにしていくきっかけにすることも含めた懇談会にしていきたいと考えた。市民の考えをどのように吸い上げるかについては、次の議題の「市民懇談会の概要」で説明したい。

### （副委員長）

- ・市民懇談会と専門職の懇談会は、どちらを先に実施するのか。

### （事務局）

- ・市とも今後調整したいと思っているが、保健、医療、福祉関係者の懇談会を先行させたいと考えている。

### （委員）

- ・先ほど西東京市の関係機関がよくつながっている実感があると話したが、ここの対象に挙がっている機関が一堂に会して課題を話し合う、アイデアを話し合う機会は今までなかったと思うので、よい機会だと思う。ただ、専門職の視点というより対象者は市の事業を受託している関係機関ととらえるが、それでよいか。それとも対象者がもっと広がるのか。

### （副委員長）

- ・加えて福祉関係者、NPO法人、社会福祉法人、施設事業者などは入らないのか。

### （事務局）

- ・第3期の西東京市地域福祉計画を策定する時に、NPO法人や社会福祉施設へのヒアリングを市が行い、ニーズを把握していた。今回はそこと重ならないように市とこれから調整していこうと考えている。

### （副委員長）

- ・これはヒアリングではなく懇談会なので、ここにある保健、医療、福祉関係者が混ざって議論する中にNPO法人や社会福祉法人も入った方がよりいろいろなアイデアが出ると思った。

### （事務局）

- ・この対象者や開催時期や時間帯などについてもご意見をいただきたい。

### （横山委員）

- ・保健、医療、福祉関係者というと、医療でいえば医師というイメージを持ってしまう。懇談会に医師、歯科医といった専門職が入るイメージはないのか。

(事務局)

- こういうルートで依頼すれば参加してもらえるとという情報があれば、是非検討したい。事務局としては、医療の部分については「在宅療養連携支援センター「にしのわ」」のところでカバーしていただけないというイメージを持っていた。それでは足りないということであれば、別途ご意見をいただきたい。

(副委員長)

- 具体的に施設の提案があれば、ご意見をいただくということで進めたい。

(委員)

- 実施概要について、この懇談会と策定委員会との関係性はどうなっているのか。懇談会の席に委員は参加できるのかできないのかお聞きしたい。
- 意見を聞くには相当準備が必要だと思う。それぞれの対象者がいる程度把握できるよう事前に十分根回ししておかないと、いきなり出てきて「何かありませんか」というようなことでは、短時間の中では有意義な意見交換ができないのではないと思う。

(事務局)

- 委員と懇談会との関係について、出席していただける委員がいれば、是非出ていただきたい。ただ、メンバーに加わるということではなく、周りから見たり聞いたりしていただくという立場で参加していただきたい。懇談会の結果については、アンケートと同様にまとめてこの委員会に提供させていただき、その上で計画づくりに着手していこうと考えている。
- 事前の準備については、コンサルタントと正副委員長に協力いただいて準備をさせていただきたいと思っている。

(委員)

- この懇談会の規模、どのくらいの人数をイメージしているのか。参加するメンバーについては、「参加したい」という希望を聞き入れてもらえるのか。

(事務局)

- 規模としては20から30人を想定している。グループワークをするので、1グループに6人としても、多くて5グループくらいのイメージで考えている。参加者については規模との兼ね合いの中で取舍選択させていただく場合がある。

(委員)

- 西東京市の中で、保健、医療、福祉に関することの相談業務を受けている関係者の視点という捉え方でよいのか。例えば、NPOをまとめている協働コミュニティ課などの部署が入ってもよいし、NPOの団体は市の懇談会に入ってくださいなど、もう少し広げてよいのではないかな。

(副委員長)

- 現在の対象は「センター」という名前がついている機関が多く、いわゆる現場より少し離れた立場の方たちなので、どちらがよいのかは議論していただきたい。両方混ざる方が面白い場合もある。

(委員長)

- 保健、医療、福祉関係者の懇談会について、いわゆる地域共生社会の「丸ごと」に関わることなので、たくさん呼べば、いろいろな方が参加できる。しかし、どこを呼ぶかということが、西東京市版の「丸ごと」をどう構想するのかに関わってくることになるので、社協としてどう考えているのかを明確にしないとイケない。無尽蔵に呼べばよいということではないし、数を絞りすぎると「丸ごと」にはならない。何かビジョンがあれば話していただきたい。

(事務局)

- 基本的には、相談を受けている専門職というイメージで企画をしていた。ただ、この委員会の中で足りないということであれば、広げていきたいと思っている。

(委員)

- 引きこもりについての目線での専門の相談員の方を入れていただきたい。欲を言えば、中高生の問題についての専門家を入れていただきたい。中学校を卒業した後、高校に行かずに早く妊娠してしまっていることなどは児童館を運営している人間にとっては大きな課題である。また、子どもの貧困問題も大きな課題であり、西東京市にはそれを支援している団体があるので、意見交換の中に組み込んでいただけると嬉しい。

(副委員長)

- 資料では懇談会の目的、対象と書いてあるだけだったので、「相談業務」などの絞り込みなどして、獲得すべき目標に対して誰を呼ぶというところを精査していただくとよい。ただ、対象には青少年系も入った方がよいとか、相談業務担当者という位置づけの下にどういう分野を選ぶかをもう一回考えてもらう方がいいかと思う。
- ワークショップでの実施の場合の時間が最大2時間では短か過ぎると思う。最低3時間はないとやれない。大きなテーマなので、少なくとも事前に統一のフォームでそれぞれ書いてもらって、それを宿題として持ってきてもらった上で、その部分を省いて進められるような形のワークの進行ができればよいと思った。

## (2) 市民懇談会<地区懇談会>の実施について(市と協働開催)

- 事務局、コンサルタントより資料P44~47に沿って説明

【質疑・検討事項等】

(委員)

- 前回参加させてもらって、参加者に偏りがあると感じた。今回、専門職の懇談会があるので、地域包括支援センターは抜かして、より地域のいろいろな機関の人に声をかけていく方がよいと思う。地域の中には社会福祉法人など、児童に関するさまざまな機関がたくさんあるので、より市民や地域に根付いている方たちに広げるのはどうか。

(委員長)

- おそらくこの中で地域包括支援センターが出てくるのは、社協の懇談会と市の懇談会で、整合性ができていないということだと思う。社協が主導して行う保健、医療、福祉の関係者の懇談会に市も少し関わることができれば、その関係は整理できることになる。その部分が整理できていないので、何度も地域包括支援センターが出てきてしまう。懇談会を共催にするのも一つの方法だと思うが、事務局はどう考えているか。

(事務局)

- そうできれば一番よいが、専門職の懇談会については社協で行うと市には伝えてある。それに対して市がどう応えるかはまだ話し合いをしていない。対象者については専門職の懇談会と地区別の懇談会の棲み分けについて市と協議して決めていきたい。

(委員長)

- いずれにせよ、整合性を持たせることはとても大事なことである。社協の懇談会は今回の計画で初めて行うもので、前例がないという状況でやっていることが前提だと思う。市の計画もあり、策定委員もいて、そちらの考えもあるとして、まずは活動計画の中でこういう意見があるということを出すのは重要である。この委員会での意見を他にも出してもらって、市の計画で揉んで、調整をかけていく流れになると思う。

(副委員長)

- ・メンバーは固定なので、公募ではないということか。

(事務局)

- ・そうである。

(委員)

- ・事務局から市の地区懇談会に提案できるのであれば、西東京市には武蔵野大学があり、地方から来て一人暮らしをしている学生もたくさんいる。懇談会に学生にも入ってもらって、新たな西東京市の若者目線の課題も抽出されるのではないかと思う。

(委員)

- ・専門分野での話も必要だが、「地域共生」の共生の部分では、どのような人がどのようなことを言ってもいいような場があった方がよい。いろいろな考えがあることで気づきになり、そこで話し合われたことを聞いた上で何か生まれるものもあると思うので、高齢者、障がい者など、困っている分野を分けるのではなく、みんなで話し合うことの意味、そこに一緒にいる意味を考えていただきたいと思う。「チャオ」をやっている、相談するとき、市役所なのか、社協なのか、地域包括支援センターなのかと迷うことがあり、「ほっとネット」に話を聞いてもらっている。一緒になって考えることに意味があるのではないかと思うので、こういう会議を有意義にしていただければよいと思う。学生が「チャオ」に視察に来てくれたが、現場を見てもらうことが、運営にとっても利用者にとっても、学生にとってもよいことだと思う。特に学生には、こんなことをしているんだということを実際に見てもらうことが大切であり、ぜひ経験していただきたい。専門分野に別れての会議を行うのも必要であるが、一つにまとまってその場を共有していただける機会があればよいと思う。

(副委員長)

- ・まさに「我が事・丸ごと」の懇談会である。先ほどのアンケートで見えてこない方々、全く地域とつながりがなかった人たち、例えばイクメンの人とかおやじの会、PTA、育成会で頑張っているお父さん方は、あまりこれまで関わりはないが、「我が事・丸ごと」を進めていくのであれば、当然コミットしてもらいたい方々であり、こうした方が参加できる開催日時を設定をしていただきたい。

(委員)

- ・市も社協も共通していることは、メンバーの選定のあり方ではないかと思う。対象は支援している側の人ほとんどで、実際に利用している人から見てあり方を考えることもあってよい。公募による参加もあるとよい。これまで関わりがなかった人が将来のサポーターになるような計画であればよいのではないかと思う。

(委員)

- ・前回は市民懇談会をされていると思うが、構成員で吸い上げたニーズ、吸い切れなかったニーズは評価されているのか。

(委員長)

- ・前回の計画の中では、地域福祉活動計画では内容については触れていない。市の地域福祉計画では、出た意見をグルーピングしたり、課題はこれだとワークの中で出したりはしたので、それを一覧にして載せて、計画の中では懇談会ではこんな意見が出た、それを踏まえて次の計画ではこういうことを生かしていく必要があるとの言及はある。ただ、今回は市と社協が双方に向き合うということ、これを明確化して行っている形になるので、それぞれの懇談会の結果を市はどう使うのか、社協はどう使うのかということころは少し整理、確認しておいた方がよい。お互いの計画に同じような掲載がされているとあまり意味がないと感じる。

(委員)

- 参加者にいろいろな利用者の方々を入れると、もっと間口が広がるような気がする。参加者分類を見ると、代表者が中心になるが、この中で出たいろいろな問題を、参加者が持ち帰ることが出来ればよいと思う。支援者と利用者の両方が出れば調整が取れるのではないかと思う。

(委員)

- 現行の地域福祉計画の巻末に座談会の結果のまとめが載っているので、このページのコピーを提示すると、こんな意見が出たとイメージしやすいと思う。

(事務局長)

- ご意見をいただいて、ただ声を市へ届けるといっただけでは不十分だと感じる。委員長が市の策定委員会の委員長も兼ねているので、市の委員会へ今出た意見をもって行ってほしい。事務局でも調整しながら、極力市の方にも理解していただいて、双方がよい内容のものを実施できるようにしたいと思う。

(副委員長)

- 社協や地域福祉にこれまで関わりがない人たちが少しでも関わってもらうのが「我が事・丸ごと」だと思っている。

## 6. 次回以降の日程、会場

- 第3回策定委員会： 日時 平成29年12月12日(火) 19時～21時  
会場 田無総合福祉センター2F 視聴覚室
- 第4回策定委員会： 日時 平成30年2月26日(月) 19時～21時  
会場 田無総合福祉センター2F 視聴覚室

(以上)